

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那南高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年5月30日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 恵那南高等学校会議室
- 4 参加者

会長	桜井 正之	岐阜県先端科学技術センター
副会長	鈴木 隆一	NPO法人「いわむら一斎塾」理事長
委員	瀬瀬 千尋	明智振興事務所長
	根崎 育郎	本校同窓会長
	渡邊 直樹	恵那市立明智中学校教頭
	塚田 直子	恵南商工会女性部部長 (欠席)
	足立 伊公子	えな健幸生活支援隊事務局長
	堀 陽子	農業法人おんさい工房 (欠席)
	石田 宏樹	株式会社ROBOZ代表取締役
	瀬瀬 尚子	恵那南高等学校PTA代表
オブザーバー	水野 正敏	岐阜県議会議員
	岡田 庄二	恵那市教育長 (欠席)
	渡辺 康正	明知鉄道株式会社代表取締役
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター
学校側	安藤 範和	校長
	柴 成吉	教頭
	大野 和司	事務長
	河村 拓士	教務主任
	小島 公示	総合学科主任

### 5 会議の概要

#### (1) 令和5年度の学校運営方針について

- ① 教育課程の編成に関する事項について
- ② 学校経営計画に関する事項について
- ③ 学校の組織編成に関する事項について

意見1：新型コロナが5類に移行したことで、今までできなかった活動ができるようになってくるので、今後の活動に期待したい。

意見2：今年度からスケート部とソフトテニス部が募集停止となったが、部活動の数は決まっているか。  
⇒部活動の数は教員数に応じて県で決められており、削減の必要があった。

学校運営方針について全委員より承認が得られた。

### (2) 令和5年度以降の展望・取組について（学校側説明）

意見1：恵那市介護人材育成修学資金貸付制度を利用する生徒は何名か。

⇒2年生1名、3年生1名。

意見2：デュアルシステムを選択している生徒は何名か。また、実習先はどのように決定したのか。

⇒選択生徒は8名。企業からも多くの応募があった。希望する職種や地域がなかった場合は企業に声をかけたり、生徒に他の企業を提案したりして調整した。

意見3：デュアルシステムはどのように実施しているか。また、他の科目の時間数が減ることによる影響はないか。

⇒火曜日に自由選択科目を集中させ、その日に実施することで他の科目に影響が出ないように調整している。

令和5年度以降の展望・取組について全委員より理解が得られた。

### (3) 本校への提言

意見1：毎年下田歌子賞のボランティアを依頼しているが、よくやってくれている。今後も様々な面で中長期的に関わっていけるようにしてほしい。

意見2：授業でICTを活用していたが、タブレットのより一層の活用など、様々な使用方法を取り入れながらさらに活用してけるとよい。

意見3：「恵那南高校地域サポーター連絡会」を振興事務所が運営している。昨年度は補助金を利用して傾聴講座を実施したが、今年度は「大正村かえでまつり」にも力を入れていきたいので協力してほしい。

意見4：6月末に行われる定期演奏会は広報等を利用してさらに地域に発信してけるとよい。

意見5：恵南地区の中学校が統合され、中学生がバスを利用して通学することになったら、本校の生徒も同じバスを利用できるとよい。利用できるものは最大限利用し、活性化につなげていけるとよい。

意見6：地元の中学生在が本校に進学し、進路実現をしている話を聞くのが非常にうれしい。新型コロナの影響でできなかった中高連携が活性化し、高校選択につながっていくとよい。

意見7：本校と関わるようになり、すっかり本校のファンになった。本校の良さをアピールするために1月の産社・総合学習発表会をさらに多くの人に見てもらいたい。授業公開週間も地元以外の地域にまで周知できるとよい。

意見8：市外の中学生にもアピールしていく必要がある。ドローン学習やデュアルシステムなど、特色ある取組を多数行っているため、外部への発信をさらにできるとよい。

意見9：授業参観をし、少人数教育が充実していることに驚いた。大学進学を考える保護者にとっても魅力的だが、瑞浪市、中津川市の生徒にとっては通学が障害になっている。オンラインを活用した公開授業等、方法を工夫して遠くから通うだけの価値がある学校だということ

とを発信できるとよい。

意見 10：浪漫学園（小中高の連携）は魅力的。地元密着の学習として今後さらに重要になってくる。

意見 11：他校と比較しても生徒満足度が高く、良い学校だということは地元には伝わっている。生徒の声が大切なので、今いる生徒に魅力的な経験をさせ、充実した学生生活を送らせることが何より重要。県内でも最小規模（1学年60名）が認められている学校なので、在籍している生徒に有意義な満足度の高い教育を継続してほしい。

意見 12：就職採用する側の立場からすると、自分の考えをもち、発言できる生徒を採用したい。コミュニケーションを重視した発言し合う授業が多くできるとよい。

意見 13：通学の困難が本校を選択する障害になっているのであれば、力になれるように検討したい。

意見 14：学校を存続させるためには地域の方に協力してもらう必要がある。ホームページでの情報発信は東濃地区でも最も熱心に行っていると感じるが、方法も工夫しながらさらなる情報発信ができるとよい。

意見 15：地域との連携は、ボランティア等、単発の活動で終わらず、中長期的な探究的な学習を通して生徒の満足度を高めるとともに、地域の方に本校が必要な学校だと感じてもらえるような活動ができるとよい。また、自治会などで本校について話題にしてもらいたい。

## 6 会議のまとめ

- ・第1回運営協議会では、全委員より今年度の学校運営方針について承認が得られた。
- ・会に先立ち授業参観を実施したが、授業内容、指導方法、生徒の様子等について、概ね高い評価を得た。タブレット利用についてはさらに促進していく。
- ・本校の今までの取組、今後の取組に対しては概ね良い評価が得られた。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、今までできなかった活動が再開できることに対する期待が高い。
- ・良い取組が地元の中학생やその保護者には浸透してきたが、少子化の中、入学志願者数の増加には限界があるため、他地域にまで情報を発信していくことが課題である。